

- 第九條 試驗ノ成績ハ豫備試験ノ得點ト本試験ノ得點トヲ平均シタル點數ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十條 雅樂講習所長ハ試験終了ノ日ヨリ三日以内ニ試験成績表ヲ調成シ神部署長ニ報告シ署長ハ之ヲ神宮大宮司ニ報告スルモノトス
- 第十一條 本規則施行ニ關スル事務ハ雅樂講習所長ニ於テ整理スルモノトス
- 第十二條 豫備試験及本試験施行ニ際シ本規則ニ準據シ難キ事狀アルトキハ雅樂講習所長ハ神部署長ノ指揮ヲ請フテ處理スヘキモノトス

雜

○皇室婚嫁令 明治三十三年四月二十五日

朕茲ニ樞密顧問ニ諮詢シ皇室婚嫁令ヲ定メ皇子孫ヲシテ循行スル所アラシム
皇室婚嫁令

第一章 大婚

- 第一條 大婚ノ禮ハ天皇滿十七年ニ達シタル後ニ於テ之ヲ行フ
- 第二條 天皇皇后ヲ立ツルハ皇族又ハ特ニ定ムル華族ノ女子滿十五年以上ノ者ニ限ル
- 第三條 大婚ノ約ヲ成ストキハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ奉幣使ヲ神宮神武天皇山陵並先帝先后ノ山陵ニ發遣ス
- 第四條 大婚ノ約成リタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス
- 第五條 大婚ノ禮ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス
- 第六條 大婚ノ禮ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告ス
- 第七條 大婚ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ
- 第八條 立后ノ詔書ハ大婚ノ禮ヲ行フ當日之ヲ公布ス
- 第九條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇靈殿神殿ニ謁ス

- 第十條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ太皇太后皇太后ニ謁ス
- 第十一條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ
- 第十二條 大婚ノ禮ヲ行ヒタルトキハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山陵並先帝先后ノ山陵ニ謁ス
- 第十三條 立后ノ詔書公布セラレタルトキハ圖書頭其ノ事項ヲ皇統譜ニ登錄ス
- 大婚ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ之ヲ尙藏ス
- 第十四條 諒闇中ハ大婚ノ禮ヲ行ハス
- 第二章 皇族婚嫁
- 第十五條 皇族婚嫁ノ勅許ハ其ノ約ヲ成ス前ニ於テ之ヲ奏請スヘシ
- 第十六條 皇太子皇太孫親王王結婚ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ
- 第十七條 皇太子皇太孫親王王結婚ノ禮訖リタルトキハ妃ト共ニ天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス
- 第十八條 皇太子皇太孫ノ結婚ニハ第三條第四條第五條第六條第九條第十條第十一條第十二條ノ規定ヲ准用ス
- 第十九條 親王ノ結婚ニハ第五條第九條ノ規定王ノ結婚ニハ第九條ノ規定ヲ准用ス

- 第二十條 皇族ノ婚嫁ハ其ノ當日宮内大臣之ヲ公告ス
- 第二十一條 皇族ノ婚嫁ハ男子滿十七年女子滿十五年ニ達スルニ非サレハ之ヲ成スコトヲ得ス
- トヲ得ス
- 第二十二條 皇族ノ婚嫁ハ直系親族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間之ヲ成スコトヲ得ス
- 第二十三條 皇族ノ婚嫁ハ諒闇中及皇族直系尊屬ノ喪中ニ於テ成スコトヲ得ス
- 第二十四條 皇族ノ婚嫁皇室典範第三十九條第四十條ニ違フトキハ無効トス
- 第二十五條 皇族ノ離婚ハ勅許ヲ經ルコトヲ要ス之ニ違フトキハ無効トス
- 第二十六條 皇族ノ婚嫁ニ關スル事項ハ圖書頭之ヲ皇統譜ニ登錄ス
- 勅使著服
- 神宮及諸社ヘ勅使參向ノ節著服ノ件 明治十七年一月二十四日 宮内省乙第壹號
- 府 縣
- 神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ニ付勅使トシテ掌典參向ノ節ハ自今祭服從前ノ衣冠著用候條此旨相達候事
- 但地方官勅使相勸候節ハ便宜大禮服ヲ以テ祭服ニ換用可致尤殿上ノ式ハ明治八年十二式部寮布達ノ通可心得事

〔参照〕

○式部寮布達(明治八年十二月)
 伊勢神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ノ節奉仕並拜禮ノ體殿上ノ式ハ祭服坐禮殿上ノ式ハ大禮服用立禮ノ事
 但神官ハ明治七年正院御布告第三拾八號ニ依リ坐禮立禮共祭服用用ニヘキ事
 右之通被定候條來明治九年一月ヨリ執行可致且管内ニ官國幣社等有之向ハ其旨神官へ可被相達此段及布達候也

同 明治十七年五月六日
 宮内省乙第四號

神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ノ節勅使著服ノ儀本年一月相達置候處自今服制官位ニ依リ
 左表ニ照準シ著用スヘシ此旨相達候事

袴 指貫	有紋紫固織	同	紫平絹	同	白布	親王	親王	親王	親王	親王	親王
						親王	親王	親王	親王	親王	親王
冠	有紋黑羅	同	同	同	無紋黑絹	親王	親王	親王	親王	親王	親王
袍	夏有紋黑羅 冬有紋黑羅 裏同色絹	同	同	同	夏有紋黑羅 冬有紋黑羅 裏同色絹	親王	親王	親王	親王	親王	親王
單	有紋紅綾	同	同	同	紅平絹	親王	親王	親王	親王	親王	親王
冠紋	親王ハ從前著用ノ紋ヲ用ヰラレ可シ但適宜ノ紋ヲ撰用ヰラレモ妨ナシ 勅任官以下五位以上ハ遠文但所有ノ單ハ在來ノ紋ヲ用ユルモ妨ナシ	親王ハ冠紋ニ同シ 勅任官以下五位以上ハ(纏唐草)(輪無)ノ内ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王冠紋ニ同シ 一等官三位以上藤ノ丸紋ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王	親王	親王	親王	親王	親王
袍紋	親王以下五位以上ハ(纏唐草)(輪無)ノ内ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王冠紋ニ同シ 一等官三位以上藤ノ丸紋ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王	親王	親王	親王	親王	親王
單紋	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王冠紋ニ同シ 一等官三位以上藤ノ丸紋ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王	親王	親王	親王	親王	親王
袴紋	親王冠紋ニ同シ 一等官三位以上藤ノ丸紋ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王冠紋ニ同シ 一等官三位以上藤ノ丸紋ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王以下五位ニ至ル迄莖葉紋同遠紋同様ノ内ヲ用ユ可シ	親王	親王	親王	親王	親王	親王

○皇族御參拜下馬下乘
 下馬下乘場所設定ニ關スル件 明治七年三月十二日
 敎部省甲第六號達

神宮並官國幣社

皇族御參拜等之節下馬下乘場所ノ儀ハ其社ノ實境ニ依リ本社ヨリ第一次ノ鳥居或ハ樓
 門外又ハ階砌下等相當ノ向モ可有之候條各社ノ適宜ヲ以見込相立畧圖面ヲ副往復ノ外
 五日限リ無遲延可伺出此旨相達候事

同件ニ付伺 明治七年三月二十日
 敎部省ハ伺 皇族方御參拜之節下馬場所ノ儀伺

御省本年甲第六號御達皇族御方神宮御參拜等之節下馬下乘之場所見込相立可伺出旨致
 承知候仰皇大神宮並豐受宮共第二鳥居ト稱候者則正宮ヨリ第一次ニ相當候鳥居ニ候條

皇族御方ハ同所ニ於テ下馬下乘相成可然存候皇土御參拜之節ハ板垣御門ニ於テ下御被遊候儀ニ有之旁右ニ比例照準シ御達面之趣ヲ以見込相立別紙畧圖面相添此段相伺候至急御指令被下度候也

○添付圖面畧ス

同 指令 明治七年五月二十二日

伺之通被定候事

但度會縣へ可届置事

別宮域内下乗場所ノ件

明治三十一年四月四日出甲第七號 内務省へ伺

別宮域内皇族下乗場所確定並標札設置ノ件伺

皇族御下乗場所之儀ハ本宮及豐受宮ノミ一定シ遠隔別宮ニ於テハ從來確定致居ラス候處自今兩月讀宮ハ宿衛屋前瀧原宮ハ修祓所前伊雜宮ハ手洗場前ト相定メ別紙圖面朱標ノ箇所ニ新規建設致度御差支無之候哉此段相伺候也

同 指令

明治三十一年七月十九日 内務省指令甲第七二號

神宮司廳

本年四月四日出甲第七號別宮域内皇族下乗場所確定ノ件伺之通但標札ハ設置ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

○叙位條例

明治二十年五月四日 勅令第十號

朕叙位條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

叙位條例

第一條 凡ソ位ハ華族勅奏任官及國家ニ勳功アル者又ハ表彰スヘキ効績アル者ヲ叙ス

第二條 凡ソ位ハ正一位ヨリ從八位ニ至ル十六階トス

第三條 凡ソ位ハ從四位以上ハ勅授トシ宮内大臣之ヲ奉ス正五位以下ハ奏授トシ宮内大臣之ヲ宣ス

第四條 凡ソ位ハ刑法其ノ他特別ノ規定ニ於テ定メラレタル場合ヲ除クノ外終身之ヲ有セシム

特別ノ規定ニ於テ定メラレタル場合ニ該當セサルモ有位者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處

セラレ其ノ他體面ヲ汚辱スルノ行爲ヲ爲シタルトキハ位記ヲ返上セシム

第五條 凡ソ位ハ從四位以上ハ爵ニ准シ禮遇ヲ享ク其准例左ノ如シ

叙位條例

明治三十一年四月十四日勅令第一四七號ニ據

公	侯	伯	子	男	爵
從一位	正二位	從二位	正從三位	正從四位	

第六條 爵位ヲ併有スル者ハ高キニ從テ禮遇ヲ享シ

○有位者改姓名死亡其他異動届出方 明治二十四年六月二十五日 宮内省達乙第一號

有位者 一般(華族ヲ除ク)

自今改姓名貫屬換及轉居ハ其都度本人ヨリ死亡ハ相續人又ハ親屬ヨリ直ニ當省爵位局へ届出ツヘシ

○參内及參拜御苑參入心得

參内及賢所參拜吹上御苑參入ノ輩昇降下乘制限 明治二十二年一月九日 宮内省達號外

參内及賢所參拜吹上御苑參入ノ輩昇降下乘制限左ノ如ク相定メ本年本月十一日ヨリ之ヲ實施ス

但時ニ臨ミ特ニ示達スル場合ニ於テハ此限ニアラス

參内

- 一 親任官勅任官爵香間祇候有爵者非役從四位以上外國公使其他内外國人ノ勳三等以上若クハ勅任ノ待遇ヲ受クルノ輩新年朝拜三大節及外國公使國書ヲ捧呈スル場合ニ限リ正門ヲ入り御車寄ヨリ昇降シ乘馬車乘馬ノ儘昇降所ニ至ルヲ得若シ其人力車ナルトキハ正門ヨリスルモノハ正門外ニ於テ坂下門又ハ通用門ヨリスルモノハ東車寄前ニ於テ下乗スヘシ
- 一 同上ノ輩同上ノ場合ヲ除クノ外ハ都テ坂下門又ハ通用門ヲ入り東車寄ヨリ昇降シ乘馬車ノ儘昇降所ニ至ルモノトス
- 一 奏任官華族非役正五位以下從六位以上内外國人ノ勳四等以下勳六等以上若クハ奏任ノ待遇ヲ受クルノ輩門跡寺院ノ住職ハ新年朝拜以下都テノ場合ニ於テ坂下門又ハ通用門ヲ入り東車寄ヨリ昇降シ乘馬車ノ儘昇降所ニ至ルモノトス
- 一 賢所
- 一 親任官以下奏任ノ待遇ヲ受クル輩及門跡寺院ノ住職ハ正門又ハ坂下門通用門吹上門ヲ入り其正門吹上門ヨリスルモノハ千里門外ニ於テ坂下門通用門ヨリスルモノハ外庭東門ヲ經テ道灌門外ニ於テ下乗スルモノトス但正門ヨリスルモノハ乘馬車乘馬ノモノニ限ル

吹上御苑

- 一 親任官以下勅任ノ待遇ヲ受クル輩ハ吹上門ヲ入り廣芝口ニ於テ下乗スルモノト
六
- 一 奏任官以下奏任ノ待遇ヲ受クル輩ハ吹上門ヲ入り吹上一ノ門ニ於テ下乗スルモノトス

同 明治二十六年十二月二十六日
宮内省達乙第九號

正七位勳七等以下有位帶勳者參賀並賢所參拜ノ節及判任官判任待遇ノ輩賢所參拜ノ節昇降下乘制限ハ明治二十二年二月九日宮内省達號外參内ノ條第三項及賢所ノ條ヲ適用ス

○參賀及賀表

參賀及賀表差出方 明治十一年十二月二日
大政官第三十六號布告

- 帶勳有位ノ輩新年並紀元節天長節參賀ノ儀左ノ通被定候條此旨布告候事
- 一 非役勳六等以上同從六位以上在京ノ輩ハ參内拜賀シ他ハ「所在ノ地方廳ヲ經テ」賀表ヲ上ルヘシ

但在官職ト雖モ判任以下ハ仍ホ非役ニ同シ

(以下消滅)

明治二十六年十二月二十六日
宮内省達乙第九號
五日宮内省
達乙第八號
ニ據リ一ノ所
在ノ地方廳
ヲ經テ一ノ
九字消滅

同 明治二十六年十二月二十五日
宮内省達乙第七號

自今新年紀元節天長節ニ於テ非役正七位以下同勳七等以下在京ノ者ハ宮中ニ參賀シ地方ニ在ル者ハ賀表ヲ上ルヘシ
但在官職ト雖モ判任官以下ハ本文ニ同シ

三大節賀表書式 明治二十六年十二月二十五日
宮内省達乙第八號

新年紀元節天長節賀表書式左ノ通改正ス

賀表書式

- 一 新年ニ拜賀シ又ハ新年紀元節天長節ニ宮中へ參賀シ得ヘキモノニシテ地方ニ在ルトキハ第一第二書式ニ據リ賀表ヲ式部職ニ差出スヘシ但連名ヲ以テスルモ妨ナシ
- 一 判任官准判任官判任待遇者ノ參賀又ハ賀表ヲ受ケタル各長官ハ第三書式ニ據リ言上書ヲ式部職ニ差出スヘシ

第一書式

第二書式

第三書式

年月日 官位勳爵氏名	折目	謹奉賀新年 紀元節 天長節	折目	謹奉賀新年 、 、 、 、	折目	新年 紀元節ニ付列任官准列任官 天長節 列任待遇一同ノ参賀相受此 段及言上候也
年月日 位勳爵氏名	折目		年月日 位勳爵氏名	折目		年月日 長官氏名

横二ツ折

料紙大廣奉書ヲ用フヘシ但美濃紙薄葉ヲ代用スルモ妨ナシ

○神官神職政治論關與禁止

神官神職ハ議員選舉競争ニ關與スヘカラス 明治二十七年二月六日 内務省訓第五號

北海道廳 府縣

衆議院議員ノ選舉ニ際シ神官神職ハ自己享有ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論セ
ス總テ政論ニ容喙シ朋黨ニ加盟シ選舉ノ競争ニ關與ス可カラズ專心一意本務ニ從事セ
シムヘシ

神官神職政治ニ關與スル事ヲ得ス

明治二十八年五月十五日 本局及警保局通牒 北海道廳 府縣

神宮神官官國幣社以下神社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事スル職ニアルヲ以テ齋肅恭敬神事
ニ奉仕シ苟モ輕跳躁暴ノ行爲アルヘカラス國政ニ容喙シ政事ヲ論議スル如キ固ト其職
分ト相反ス然ルニ近頃神官神職中其本分ヲ忘レ政治ニ奔走シ時事ニ關與スルモノアリ
殊ニ對清戰爭漸ク其局ヲ結ヒ五月十三日詔勅及勅令ノ公布セラレタルニ當リ私ニ其條
款ニ不滿ヲ抱キ狠ニ言ヲ敬神ニ藉リテ排外的感念ヲ挑發セシメ以テ構和事件ノ進行ヲ
妨害セントスルモノアルヤニ相聞ユ右ハ憂國ノ衷情措ク能サルニ出ツルモノナルヘシ
ト雖モ神官神職ハ日常神明ニ奉仕スルノ職分アリ斯ノ如キハ實ニ神明ニ對シテ齋肅恭
敬ヲ缺クノミナラス敵愾教唆ノ餘兇徒ヲ出ス如キコトアラハ實ニ容易ナラサル儀ニシ
テ國家ノ體面ニ關シ治安ヲ妨害スルコト尠ナカラス四月二十一日及五月十三日詔勅ノ
御趣旨ニ反戾シ曠職ノ責等附ニ附スヘカラサル次第ニ付此際神官神職ヲシテ一層反省

皇族へ大麻及曆獻進ノ件 神部署文書提出ニ關スル件
兩宮宮域及神苑地附近家屋建設制限ノ件

三八六

自警其職務ニ精勵シ毫モ不都合ノ行爲無之様嚴重御訓示有之度命ニ依リ此段申進候也

○皇族へ大麻及曆獻進ノ件 明治三十三年十一月十二日幣甲第一六三號ノ内
内務省神社局長通牒

(前畧)大麻及曆獻上ニ付皇室へ献上ハ儀ニ及回答置候通從前ノ如ク大宮司ヨリ之ヲ獻上シ皇族へノ獻進ハ神部署長ヨリ之ヲ獻上セラレ可然經伺ノ上此段及通牒候也

○神部署文書提出ニ關スル件 明治三十三年十一月二十一日
内務省訓第一〇六五號

神宮 大宮司

神部署ヨリ當省へ差出スヘキ背面ハ其大宮司ヲ經由セシメ其大宮司ハ意見ヲ付シテ當省へ進達スヘシ

但事輕易ニシテ意見ヲ付スルノ要ナシト認ムルモノハ別ニ意見ヲ副申セズ單ニ其進達ノ年月日及番號ヲ記載シ司廳印ヲ押捺スヘシ

○兩宮宮域及神苑地附近家屋建設制限ノ件 明治三十四年五月二十四日
三重縣令第四十五號

内宮外宮宮域及神苑地附近屋舎制限左ノ通り之レヲ定ム

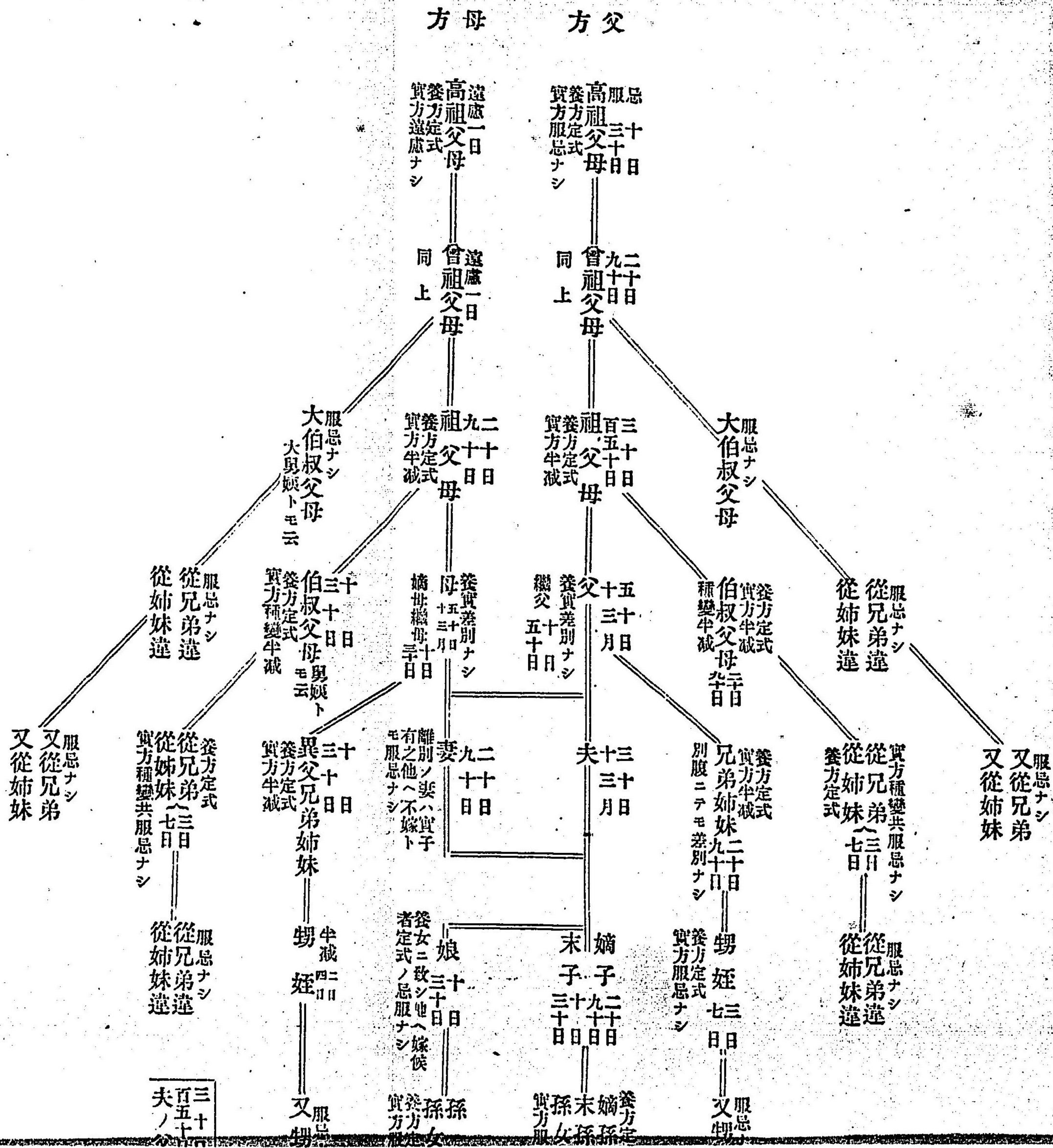
第一條 宮域地及神苑地トノ距離六拾間以内ニ於テ屋舎ヲ新設シ若クハ既設ノ屋舎ヲ

改築セントスルトキハ設計書ニ圖面ヲ添へ所轄警察署ニ願出許可ヲ受ク可シ

第二條 前條ニヨリ新設若クハ改築スル屋舎ハ左ノ制限ニ從フ可シ

- 一 屋舎ハ平屋造ニ限ル事
 - 二 屋根ハ不燃質物ヲ以テ葺葺スル事
 - 三 竈ハ煉瓦石ノ類ヲ以テ築造スル事
 - 四 浴場ヲ設クルトキハ火焚場ハ煉瓦石ノ類ヲ以テ築造スル事
 - 五 火消場及灰置場ハ不燃質物ヲ以テ築造スル事
 - 六 烟突ヲ設クルトキハ煉瓦石又ハ鉄板製ニシテ屋上ヨリ六尺以上突出セシムル事
 - 七 便所尿溜ハ不滲透質物ヲ以テ築造スル事
- 第三條 宮域地及神苑地トノ距離百貳拾間以内ニ於テ煤烟ヲ飛散シ又ハ惡臭ヲ發ス可キ製造場若クハ牛馬繫置場ヲ新設スル事ヲ得ス但シ既設ノ牛馬繫置場ハ明治三十四年十二月三十一日迄ニ移轉ス可シ
- 第四條 宮域地及神苑地トノ距離三百間以内ニ於テ汽罐又ハ熱機關ヲ使用シ及危險物ヲ貯藏シ若クハ取扱フ屋舎ヲ新設スル事ヲ得ス
- 第五條 本令ニ違犯シテ建設シタル屋舎ハ地方長官ニ於テ必要ナル措置ヲ命スル事アル可シ

服忌令概表



違違

三日
七日
服忌ナシ
又甥姪

二十日
二十日
二十日
二十日
養方定式
嫡孫十日
末孫三日
孫女三日
實方服忌ナシ
會孫三日
會孫女七日
玄孫三日
玄孫女七日

十日
十日
孫女
孫女
會孫
會孫女
玄孫
玄孫女
服忌
服忌
服忌
服忌
服忌
服忌

服忌ナシ
又甥姪

違違

三十日
百五十日
夫ノ父母

違違

三日 服忌ナシ
七日 又甥姪

二十日 養方定式
二十日 嫡孫十日 忌日
二十日 末孫三日 七日
二十日 孫女三日 七日
二十日 實方服忌ナシ
會孫 孫 三日
會孫女 七日
玄孫 孫 三日
玄孫女 七日

十日 孫 三日
十日 孫女 七日
十日 養方定式
十日 實方服忌ナシ
會孫 孫 三日
會孫女 七日
玄孫 孫 三日
玄孫女 七日

服忌ナシ
又甥姪

違違

三十日
百五十日
夫ノ父母

追録

○神部署職員俸給支給規則 明治三十五年四月二日
内務省令第十二號
神部署職員俸給支給規則左ノ通相定ム

神部署職員俸給支給規則

第一條 神部署長、神部ノ俸給ハ一號表ニ依リ神部補ノ俸給ハ二號表ニ依ル

第二條 俸給支給方ハ神部署長、神部ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ神部補ニ在リテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル

附則

第三條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサルモノハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク

一號表

職名	年俸	一號表			
		一級俸	二級俸	三級俸	四級俸
神部署長		八百圓	七百圓	六百五十圓	六百圓
神部		五百五十圓	五百圓	四百五十圓	四百圓

神部署職員俸給支給規則

二號表

職名	年俸							
	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸
神部補	三百五十圓	三百二十圓	三百圓	二百八十圓	二百五十圓	二百三十圓	二百圓	百五十圓

○神部署雇員俸給支給規則 明治三十五年八月七日 神部署達第一〇號
 神部署雇員俸給支給規則左之通相定ム

神部署雇員俸給支給規則

神部署雇員ノ俸給支給方ハ神部署職員俸給支給ノ例ニ依ル
 但支給期日ハ毎月廿三日トシ休日ニ當ル時ハ繰下ケトス

○神部署備人給與規程 明治三十五年八月七日 神部署達第一一號
 神部署備人給與規程左之通相定ム

備人給與規程

第一條 備人ノ給料ハ總テ本規程ニ據リ之ヲ支給ス
 第二條 給料ハ備入及増給減給トモ其當日ヨリ又解備ノトキハ其當日マテ之ヲ支給ス

第三條 給料ハ勤務日數ニ依リ之ヲ支給ス

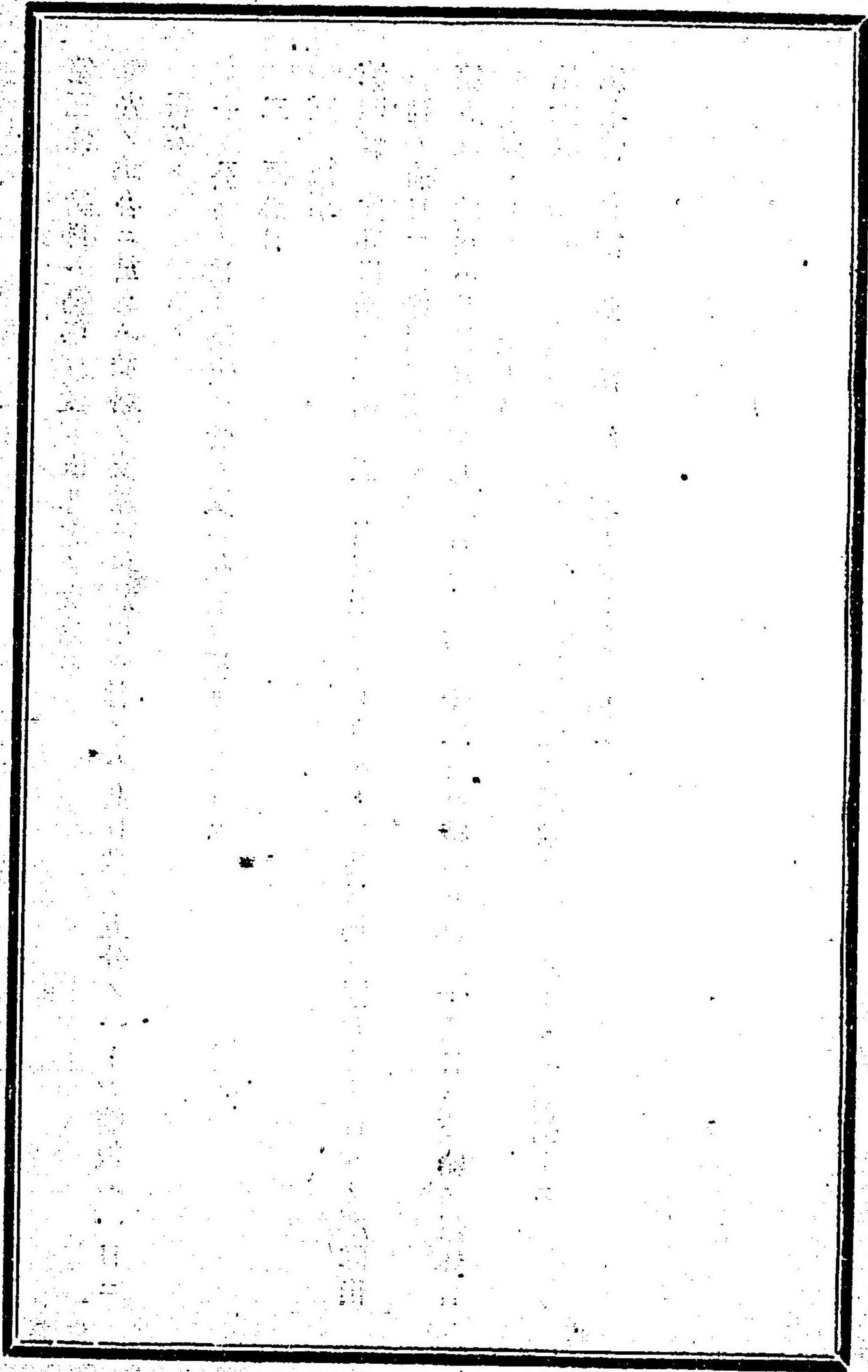
左ノ場合ニ於テハ給料ヲ支給ス但忌引ニ付テハ其日數ノ五分ノ一トシ端數ハ一日ニ
 計算ス

- 一 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ
- 二 正忌日
- 三 忌引

第四條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集セラレタルトキ其召集ニ應シタル日ヨリ解除出
 勤ノ前日マテ給料ヲ支給セス

第五條 給料ハ其月分ヲ翌月三日ニ支給シ十二月ハ特ニ其月二十八日ニ支給ス但休日
 ニ當ルトキハ繰上トス

第六條 給料ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス
 第七條 日割計算ノ法ハ總テ其月ノ日數ニ由ル



明治三十五年十月三日印刷
明治三十五年十月七日發行

(非賣品)

著作者兼發行者
神宮司廳

三重縣度會郡宇治山田町大字一之木町四十二番屋敷
印 刷 者 高 木 源 次 郎
全縣全郡全町大字下中之郷町十八番屋敷
印 刷 所 合名會社殖産組

